

自由科目(特設)

展開科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
8060102	学際的社会科学演習	2	3.0	3・4	秋AB 秋C	水5,6 集中	3A212	田中 洋子	工業化、グローバル化が私たちの生活や社会経済システムに与えてきた変化とそのインパクトについて学び、これからの社会のあり方について考えるゼミである。自動化・デジタル化・グローバル化・市場自由化という大きな変化の中で、働き方・生活の仕方や地域社会・地球環境などが大きくその構造を変えつつある。この歴史的転換について、社会科学を基盤に学際的に学びつつ、今後の社会のあるべき方向について、様々な視点を持つ全学の学生が集まり、文献を読みながら少人数で議論していく。文献講読だけでなく、様々な現場に調査にでかけつつ、個人の研究を進めていく。若干名のみ募集。	
8060201	筑波山から学ぶ一地域の文化資源発掘	1	2.0	2・3	春AB 秋A	水6 集中	3A405	前川 啓治	つくば市は学園地区と、筑波地区に代表される伝統的な地域空間からなっている。しかし、学生は4年間を過ごしても大学周辺しか知ることはない。筑波山麓地域にフィールドワークに行くと、すべての学生が、もっと早くから「筑波」を知ればよかったという感想をもつ。この授業の前半はオムニバス形式で筑波山について広く学び、後半は集中で、10月末に筑波山麓フットパス・ウォーキングを行い、景観の撮影を行う。筑波山麓地域空間に触れ、文化資源の発掘を目指す。	10月最終土ないし日曜日のフィールドワーク・ウォーキングに参加できない場合は、受講を受け付けない。 10/27(雨天時10/28)、11/1
8100102	障害学生支援技術	2	1.0	1-3	通年	随時		竹田 一則, 加藤 靖佳, 名川 勝, 佐々木 銀河, 小林 秀之, 野口 代	最初の全体オリエンテーションでは、障害学生および支援学生にも参加してもらい、本学における障害学生支援のしくみと実際の支援内容について説明する。その後、視覚障害、聴覚障害、運動・内部障害の支援技術のいずれかを選択し、障害別に実施する講義・演習等の授業を受講する。視覚障害は移動支援・印刷物のテキストデータ化等、聴覚障害はパソコン要約筆記等、運動・内部障害は移動支援等の技術の習得を目指す。なお、本授業を受講した後はピア・チューターとして実際の支援活動に従事することができる。	本授業は、全体オリエンテーションおよび障害別の支援技術に関する講義・演習の2つを受講することで単位を認定する。受講者は、全体オリエンテーションに必ず出席すること(4月下旬ごろ実施予定)。日程の詳細は掲示にて通知する。障害別の講義・演習について、受講希望者多数で定員を超えた場合には、人数制限をする場合がある。詳細後日周知
8100204	障害者スポーツボランティア実践講座	4	1.0	1-4	春C	集中		竹田 一則, 齊藤 まゆみ, 名川 勝, 松原 豊, 原島 恒夫, 小林 秀之, 末富 真弓, 野口 代	2019国体・全国障害者スポーツ大会(茨城)、2020東京オリンピック・パラリンピックなど、筑波大学の学生もボランティアとして関わることで大きな大会が開催され、障害のある観客・選手にも対応できるボランティアが社会的に求められている。本科目ではそのようなボランティアとして必要な障害者の理解・障害者スポーツに関する内容と、障害者に対応するコミュニケーション支援・移動支援の方法を学ぶ。講師は担当教員の他、人間系・体育系・DACセンターの教員が協働して関わる。	履修者は総合科目「障害のある学生とともに学ぶ共生キャンパス～障害者スポーツボランティア基礎講座～」、総合科目「障害のある学生とともに学ぶ共生キャンパス(H29年度)」、「障害科学1」、「障害科学1I」、「障害児指導法(H31年度～「特別支援教育」)」、「障害と共に生きるI」、「障害と共に生きるII」、「アダプテッド・スポーツ教育」、「アダプテッド・スポーツ科学」のいずれかを履修している学生及び過去に履修した学生に限る。詳細後日周知 秋学期も開講予定。各学期ともに履修希望が70名を超える場合は人数制限を行う。
8200903	つくばロボットコンテスト2019	3	1.0	1-3	通年	集中		伊達 央, 矢野 博明, 山海 嘉之, 相山 康道, 望山 洋, 土井 裕人	数人(3名以上5名以下)でグループを作り、自分達の創意により与えられた課題を実現する知能ロボットシステムのメカニズム、制御系およびソフトウェアを設計・製作する。この設計・製作の成果発表は、公開コンテストにおいて競技形式で行われる。この授業はロボット製作を通じて各々の技術分野の重要性を感じてもらうことを目的としている。経験や予備知識は必要ないが、ロボット製作への興味と意気込みは不可欠である。	つくばロボットコンテスト'93～'18履修者も履修可。ただし、3単位までとする。
8202003	コンテンツ表現工学	3	1.0	1-3	秋ABC	金6	3L504	宇津呂 武仁, 鈴木 健嗣, 延原 肇, 星野 准一, 若槻 尚斗, 星野 聖	コンテンツ表現の基礎を学ぶとともに、コンテンツ工学技術(CG, VR・デバイス、音楽・映像メディア、自然言語処理、ウェブ検索サービスなど)を利用した独自のコンテンツを制作する一連のプロセスを体験します。工学、医学、芸術・デザイン、ビジネスなどの異種分野の協調による多視点的な問題設定・解決を重視します。	
8204004	巨大プロジェクトエンジニア入門	4	1.0	1・2	春C	金5 集中	3A304	松田 昭博	巨大プロジェクトのエンジニアになるために必要な専門知識やコミュニケーションスキルなどの能力について学び、エンジニアとしてのキャリアパスについて考察する。実際に産業界などで活躍するエンジニアを招き、巨大プロジェクトに関わるやりがいや苦労についてリアルな事例を提供する。後半は、学内をフィールドとして、構造・流体に関するプロジェクトベースな検討を行い、学内環境の改善を試みる。(2019年度は教室の温度計測と解析を予定)。	実務経験教員
8310201	スポーツが変われば、大学が変わる	1	1.0	1-4	秋AB	水6	1H101	山田 幸雄	現在筑波大学アスレチックデパートメントが取り組んでいる大学スポーツ改革・筑波大学のブランディング・大学スポーツを通じた地域貢献活動について経緯や今後の展開について当事者である学生の興味関心を高め、大学スポーツがいかに学生生活に影響していくのか理解を得ることを目的とする。	アスレチックデパートメント開設
8320302	創造学群表現学類—OBOG指導によるクリエイティブ体験講座	2	2.0	3・4	春C 夏季休業中	集中	6A208-1	原 忠信	「筑波大学」を社会に発信するためのコミュニケーションを言語、デザイン、音楽、身体等の表現を通じて考え、クリエイティブワークを総合的、体験的に学習する。	実施時期等は掲示にて周知する。参加者は事前オリエンテーションに必ず出席すること。希望者多数の場合、人数制限をする場合がある。 H24までの「創造学群表現学類—OBOG指導によるクリエイティブ体験講座A・B」との重複履修は認めない。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
8330524	囲碁で培う思考力	4	2.0	1-4	秋A 秋B	水3,4	3A403, 3B203 3B203	前田 良二, 白川 直樹, 八森 正泰	最初に囲碁のルールを理解した後、実戦例をもとの囲碁の考え方、進め方、形勢判断方法などを学ぶ。さらに演習として実際に対局し、その評価を通じて様々な考える力を培う。囲碁の歴史と文化なども概観する	原則として囲碁を知らない者を対象とする。履修希望者が40名を超える場合は人数制限を行う。初回授業のみ3A403で行う。

キャリア形成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
8052001	青木彰記念講座・変貌するメディアと社会I	1	1.0	2・3	春AB	水5	1H201	野上 元	現在、社会の第一線で活躍している本学出身のジャーナリストおよびメディア関係者を講師として招き、毎回、異なった講師からの複眼的な視線によるオムニバス方式で、我が国のメディアが置かれている現状について講義を行う。Iでは、主に急激に変化するメディア社会の中での、報道、ジャーナリズムの役割と課題について考察する。講師陣とトピックについては掲示を参照のこと。	CDP 実務経験教員 「青木彰記念講座・変貌するメディアと社会I」と相互に関連した内容なので、できればそれらとあわせて受講することが望ましい。旧科目名「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在・I」。重複履修不可
8052101	青木彰記念講座・変貌するメディアと社会II	1	1.0	2・3	秋AB	水5	1H201	野上 元	現在、社会の第一線で活躍している本学出身のジャーナリストおよびメディア関係者を講師として招き、毎回、異なった講師からの複眼的な視線によるオムニバス方式で、我が国のメディアが置かれている現状について講義を行う。IIでは、主にインターネットの進化に伴い次々と新しいメディアツール(SNSなど)が生まれ、誰もが広く情報発信が可能になった現在、どのようなリテラシーを持ってこれに接し活用していくのかについて考察する。講師陣とトピックについては掲示を参照のこと。	CDP 実務経験教員 青木彰記念講座・変貌するメディアと社会II」と相互に関連した内容なので、できればそれらとあわせて受講することが望ましい。旧科目名「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在・II」。重複履修不可
8320404	ワーク・ライフ学—男女共同参画とダイバーシティ—	4	1.0	1	夏季休業中	集中		河野 禎之, 五十嵐 浩也	産業構造が急速に変化し、人々の生活文化、家族のあり方や社会が変容する中、我々はどうのように仕事と生活を両立させていくべきなのでしょうか。個人や個人をとりまく人間関係、組織や地域社会では、どのような問題が生じているのでしょうか。ワーク・ライフ・バランスの視点をいながら、現代の社会現象を「男女共同参画」「ダイバーシティ」をキーワードにその解明と解決に向けて学びます。具体的には、仕事や家庭、地域生活において、多様な生き方を受容し、自分らしい生活を実現できるよう、「働き方」や「生き方」を見つめ直すとともに、就職・結婚・出産・子育て・介護等のライフイベントを題材に、グループで意見交換を行いながら、生きる力、社会力を身につけます。	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター企画)
8320504	次世代起業家養成のための経営・知財必須知識	4	1.0	2・3	春C	集中	ILC101-103	尾内 敏彦, 五十嵐 浩也	起業に興味を持ちそのために必要となる知識を身につけたい学群生が、ベンチャービジネス、知的財産とその戦略、マーケティング、経営とファイナンスなどの実践的な実学を、ベンチャー企業のライフサイクルに合わせて演習を含めて学習する 開講日時:7月10日(水)12:15-18:00 7月17日(水)12:15-16:30 7月24日(水)12:15-16:30	
8321101	筑波クリエイティブ・キャンプ・ベシクラー入門講座—	1	1.0	1-4	春AB	水4 集中	共同利用棟 A101, ILC101-103 ILC101-103	尾内 敏彦, 五十嵐 浩也, 尾崎 典明	起業に関心のある受講者に対して、本学出身者を中心とする経営者陣が、様々な経験に基づく講義を行う。一流の起業家を迎え、起業の経験、ノウハウ等についてパネルディスカッション・講義を行い、起業について広く啓蒙する。	4/17, 4/24, 5/8, 5/15, 5/29, 6/12, 6/26
8321202	筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト	2	1.0	1-4	秋AB	水4,5	ILC101-103	尾内 敏彦, 五十嵐 浩也, 伊藤 健吾	本格的に起業を目指す受講者に対して、本学出身者を中心とする経営者陣が、起業プランに対するメンタリングを行う。受講者の持つ起業プランを具体化し、筑波大学発ベンチャーの設立を支援する。	

グローバル自由科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
8010801	21世紀の中国—現代中国の諸相—	1	1.0	2-4	秋AB	金4	1B208	矢澤 真人	巨大な隣国である中国は、1976年の文化大革命の終結以降、経済の改革開放政策の成果により、大きな変貌を遂げた。21世紀初頭の今、ますます存在感を増した中華人民共和国の現在の諸相を、第一線の経験を持つ筑波大学OBの講師陣が分析し、学生にとって身近な目線で講じる。中国と日本の関わりを実際の動きの中で捉えていくことを目指す。	現在中国との関わりが深い筑波大学OBが講師となっている。現代中国の文化、社会、経済、環境、日中翻訳など、様々な観点から、現場に立つ講師ならではの姿が描き出される。既成の学問の枠で説明されたものを理解して満足するのではなく、実社会の動きの中で課題を捉え、みずから解決していくために何が必要か、講義中から受講者自身で考えだすことを望みたい。G科目
8042104	海外武者修行	4	1.0	2-4	通年	応談		大倉 浩	海外の大学・企業等において、自らの企画により交流・研修活動等を行い、大学では得られない経験と自らの能力・適性を客観的に判断する機会を得る。積極性と企画力・実行力の向上及び自立性の向上を図るとともに、現地の学生グループなどと交流・研修活動を行うことにより、武者修行による教育効果を期待する。	「はばたけ 筑大生!海外武者修行支援プログラム」の募集要項に従い手続きを取る。
8050104	グローバル共存・共生	4	1.0	3-4	秋AB	水6	1C310	黄 順姫	学生たちは大学を卒業し、就職していくと、国際化が急速に進展してゆくグローバルな社会で、海外・国内の区別なく仕事をしていくことになる。そのために、今、なにを準備しておくべきなのか。この科目は3年生・4年生を対象に、グローバルに共存・共生する実社会の専門的知識・情報、実践・予測を、講義・演習形式等で提供する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
8070307	国際パートナーシップ研修(中南米)	7	2.0	1-4	通年	応談		磯田 沙織	本授業は、メキシコ、コロンビア、ペルー、チリ、ブラジルの提携協定校との協働教育科目の一つとして開講するものである。 約3週間の双方向の短期研修を利用し、事前研修の後、研修の実施国において、 1語学研修、 2当該国や日本の社会や文化に対する相互理解、 3学生の専門に応じた専門研修、 4現地企業や関連機関等でのインターンシップ、 5研修の仕上げとしてのレポート提出と提携校の学生を交えた報告会(協働演習)から構成される。 成績評価は、派遣学生については、上記に係る提携協定校のプログラム関係教員及び学生からの報告書並びに報告会における発表等に基づき、授業担当教員が行う。受け入れ学生については、上記に係る学習状況及び学生の報告書並びに報告会における発表等に基づき、授業担当教員が行う。	メキシコ、コロンビア、ペルー、チリ、ブラジルの提携協定校での実施を予定 G科目 卒業する年度において、卒業要件として単位修得する履修は認めない。世界展開力(中南米)プログラム生に限る。
8070406	国際パートナーシップ協働演習(中南米)	6	2.0	2-4	通年	応談		磯田 沙織	本授業は、メキシコ、コロンビア、ペルー、チリ、ブラジルの提携協定校との協働教育科目として開講するものである。 双方の指導教員の指導の下に、 1提携校での留学期間を利用したフィールドワーク、 2留学先学生との協働研究、 3報告書に基づき、留学経験者を交えた研究発表と討議から成る。 日本と中南米双方の開発課題とグローバル課題を共有し、留学の体験と学修、現地調査の成果として、その課題解決に向けた実践的討議を主な内容とするものである。 交換留学のタイミングにもよるが、最後の研究発表と討議は、本学での受け入れ留学生との合同での実施により協働教育の実を高めることとする。 成績評価は、派遣学生については、上記に係る提携協定校のプログラム関係教員からの報告及び学生の報告書並びに研究発表等に基づき、授業担当教員が行う。受け入れ学生については、上記に係る学習状況及び学生の報告書並びに研究発表等に基づき、授業担当教員が行う。	世界展開力(中南米)プログラムで派遣及び受け入れられている学生で、受け入れ教員の指導のもとに実施。終了時に報告会を行う。 G科目 卒業する年度において、卒業要件として単位修得する履修は認めない。世界展開力(中南米)プログラム生に限る。
8290107	国際パートナーシップ研修(東南アジア)	7	2.0	1-4	夏季休業中	集中		森川 一也	本授業科目は、日本において準備教育を実施した後、学生を東南アジア諸国へ派遣するとともに、学生の専門分野に応じた適正技術に係る実習・研究発表等を行うことで、以下の知識・能力を身に付けさせることを目的としたものである。 1 英語による実践的なコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力 2 派遣国や日本の社会・文化に対する理解 3 派遣国における発展段階に応じた課題、適正技術へのニーズ等に対する理解 4 適正技術の開発・実装に向けた課題の抽出	全学自由科目(特設)。本学および国際基督教大学の学生に限る
8330206	海外語学研修ドイツ語	6	3.0	2-4	春C夏季休業中	集中		ルーデ マルクス	パイロイト大学主催のドイツ語コースに参加することで、ドイツ語教育の専門家による授業を受け、ドイツの日常生活や文化に触れながらドイツ語を学ぶ。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。ドイツ、パイロイト大学「外国語としてのドイツ語」学科にて研修。詳細後日、案内掲示あり。 G科目
8330306	海外語学研修中国語A	6	3.0	2-4	夏季休業中	集中		池田 晋	夏季休暇中の約3週間の期間を利用し、交流協定校である中国長沙市の湖南大学において、中国語研修を行う。教室で基礎学習を行いつつ、実際の生活の中で中国人及び中国社会にじかに触れながら学び、異文化理解力と語学運用能力を高める。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。中国、湖南大学日本語・文化学部にて研修。春学期に説明会を実施予定(後日、案内掲示あり)。 G科目
8330316	海外語学研修中国語B	6	3.0	1-4	春季休業中	集中		佐々木 勲人	華東師範大学(中国上海市)で開設される中国語コース(約3週間)において、短期集中型の語学研修を行うと同時に、現地の日系企業における体験学習を実施し、それらを通して語学力を向上させ、異文化理解を深める。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。中国上海市、華東師範大学対外漢語学院にて研修。詳細後日、案内掲示あり。 詳細後日周知 G科目 2019年度は開講しない。
8330406	海外語学研修ロシア語A	6	3.0	2-4	夏季休業中	集中		加藤 百合	夏季休暇中の3~4週間の期間を利用し、本学の教育学術交流協定大学であるサンクトペテルブルク大学文学部ロシア言語文化カレッジにおいてロシア語研修を行う。具体的には、授業の場で基礎文法、会話、読解などをバランスよく学習する一方、ロシア本国での実生活という体験学習を通じてロシアの文化や社会、ロシアの人々の国民性や価値観などに対する理解を一層深める。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。ロシア、サンクトペテルブルク大学文学部附属ロシア語ロシア文化カレッジにて研修。詳細後日、案内掲示あり。 G科目
8330416	海外語学研修ロシア語B	6	3.0	2-4	夏季休業中	集中		臼山 利信	夏季休暇中の3~4週間の期間を利用し、キルギス共和国日本人材開発センター(本学の協定校であるキルギス民族大学構内/首都ビシュケク)と本学とが協力・連携し、同センターにおいて、主にロシア語研修を行う。ロシア語のほか、現地語であるキルギス語の研修も実施する。キルギス共和国での実践的な語学・異文化研修を通じて、ロシア語及びキルギス語の運用能力を伸ばすとともに、ロシア語圏の文化や社会の多様性に対する理解を一層深める。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。パスポートを早めに用意すること(更新期限が切れていないか確認すること)。また研修中は危機管理を常に意識すること。 ロシア語で授業。 G科目
8330426	海外語学研修ロシア語C	6	3.0	2-4	春季休業中	集中		臼山 利信	春季休暇中(3月)の3~4週間の期間を利用し、協定大学であるカザフ国立大学(カザフスタン共和国、アルマトイ)と本学とが協力・連携し、同大学において、主にロシア語研修を行う。ロシア語のほか、国家語であるカザフ語の研修も実施する。カザフスタン共和国での実践的な語学・異文化研修を通じて、ロシア語及びカザフ語の運用能力を伸ばすとともに、ロシア語圏の文化や社会の多様性に対する理解を一層深める。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。パスポートを早めに用意すること(更新期限が切れていないか確認すること)。また研修中は危機管理を常に意識すること。 ロシア語で授業。 詳細後日周知 G科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
8330606	海外語学研修英語A	6	3.0	1 - 4	夏季休業中	集中		久保田 章	夏季休暇中の3週間を利用し、英国オックスフォード大学ハートフォードカレッジと本学が協力・連携して実施する英語研修プログラムに参加し、授業や学外研修などを通して英語を実践的に活用しながら目的に応じた効果的なコミュニケーション能力の養成を行う。また、オックスフォードや英国の歴史、社会、文化などについての知識を深めることに加え、現地での生活体験、学生や地域の人々との交流を通じて異文化対応力を身につける。さらには協同の英語プレゼンテーションを通じて課題解決のためのチーム力を養う。	グローバルコミュニケーション教育センター開設。オックスフォード大学ハートフォード校にて研修。春学期に説明会を実施予定(後日、案内掲示あり)。英語で授業。 6科目
8332014	グローバル教養I: Learning Strategy	4	1.0	1					グローバル社会の進展に伴い、ダイバーシティの高いメンバーから構成される異文化チームにおいて、自分の意見を明確に述べ、討論し、協働する能力が求められている。 本科目は、世界各国から学生が集う、北米大学で用いられる創発的な講義の効果的な受講の仕方を学ぶために、 1アクションラーニング(行動による学習) 2ストラテジックラーニング(戦略的な学習法) 3課題解決に向けたPPDAC技法 について、オムニバス形式の授業を行う。 これにより、異なる価値観や意見を共有しながら、新しい課題解決の方法を見出す方法について、総合的に学習する。なお、全ての講義は英語開講とする。	英語で授業。 2019年度開講せず。 2020年度から生物資源学類で開講予定。
8332024	グローバル教養II: Future Leaders Program	4	1.0	1					グローバル環境を取り巻く課題は、もはや一国では解決することはほとんど不可能であり、多国籍・多文化から成るさまざまな利害関係者とのビジョン形成や討論を通して協力関係を構築していく必要がある。 本講では、国内で「グローバル教養I: Learning Strategy」を受講後に、海外提携校であるカナダ・プリティッシュコロンビア大学が開講するFuture Global Leaders Programと連携して、カナダ入他、外国人高校生と一緒にグローバルな課題に関する講義を受講し、チームプロジェクトを遂行するものである。 これにより、特定分野におけるグローバル課題の背景を理解するとともに、その分野の課題に関するチームプロジェクト遂行を通して、多面的な視点や価値観や発想を統合し、一定の解決策を導き出す課題解決型の学習を行う。 さらに、帰国後、当該プロジェクトに関する個人の視点や適用を反映した英文レポートを作成し、その内容にもとづく英語プレゼンテーションを行う。	英語で授業。 2019年度開講せず。 2020年度から生物資源学類で開講予定。